

備北新聞

(1) 2016年(平成28年) 6月15日 中旬号 (毎月5の日発行)

旬刊 備北新聞

多職種連携対応を訓練

シミュレーション
トレーニング 容態急変を想定

岡山大学医療人キャドを想定。リハビリを
リアセンタ―MUSC 終えて病室に帰ったと
AT主催、新見市地域 ところで容態が急変、作
医療ミーティング推進 業療法士や看護師、医
協議会、新見公立大学 師ができることや役割
など共催の「シミュレ を踏まえ、連携しての
ーショントレーニング 対応を訓練した。

in「新見」が28日、新見 万代医師らは、多職
公立大3号館3階実習 種のコミュニケーション
室で開かれた。 ンで大切なことは、①

このトレーニング 職能の役割を把握する
は、市内の医療機関に ②具体的に指示する③
従事する医師、看護師、 普段からのコミュニケ
理学療法士や作業療法 ーションが大切④相手
士らを対象に、容態が の立場に配慮して行動
不安定な患者に対する する―など助言した。

初期対応を現場
に近い人形を使
い訓練し、スキ
ルアップを目指
す目的。岡大医
療教育統合開発
センター助教の
万代康弘医師、
新見公大非常勤
講師の溝尾妙子
医師らが講師を
務めた。



医療従事者 応急処置をシミュレーション訓練する

急性心筋梗塞
や急性心不全な